

施肥と雑草

耕地雑草は、耕地に生え育ってこそ強力な生活力を発揮するが、路傍や原野では真にか弱き命の持主で、やがて消滅すると言われている。つまり、耕地という環境に好適して繁茂するのである。そうであれば、耕地環境とは何か。作物の間に保護されて、自然の風雪や強烈な日射を避けているためか、あるいは作物に供する肥料の横取りで栄養的に恵まれているためか。前者は暫く措くとして、後者について考えられたことがあるだろうか。

日本の夏は高温多湿で、雑草の繁茂に好都合とされている。この気候は今に始まったことでなく、昔も同様であり、東南アジアにも同じ気候の処が多い。日本の昔や東南アジアでは、日本の現状ほどには耕地雑草に苦しむ話を聞かない。してみると、雑草繁茂に施肥と密接な関係があるように見える。

各地の農業試験場では、長年継続の肥料三要素試験の中に無肥料区を設けている。収量経過は記録されているが、雑草の種類や量の変遷について調査されておれば、前記の疑問に答え得る。特に水田では、全層あるいは深層施肥と表層施肥とは田面水に溶ける肥料の量が異なるので、これが雑草の生育にどんな影響を与えるのか。

零細経営を余儀なくされる日本農業では、多収は当然の要望であり、そのために多肥するは当然であるから、基肥・追肥・分施・施肥位置と雑草生育との関係を明確にして、雑草防除を合理的にする必要があると思う。

(日本植物調節剤研究協会会長 戸町義次)

目次

(第10巻第1号)

エチレンの生理作用とその利用……………	2
---------------------	---

〈農業技術研究所 太田保夫〉

い と く ち……………	2
--------------	---

1. エチレンの生理作用……………	2
-------------------	---

2. エチレンの植物ホルモンとし	
------------------	--

ての作用機構……………	2
-------------	---

3. エチレンの生合成……………	3
------------------	---

4. エチレンとオーキシシン……………	4
---------------------	---

5. エチレンとアレロパシー……………	4
---------------------	---

6. エチレンと接触刺激……………	5
-------------------	---

7. エチレンと貯蔵性……………	5
------------------	---

さ い ご に……………	5
--------------	---

ブドウの施設栽培と生育調節剤……………	5
---------------------	---

〈日本植物調節剤研究協会 岸 光夫〉

1. はじめに……………	5
--------------	---

2. ジベレリン(GA)……………	6
-------------------	---

3. ベンジルアデニン(BA)……………	8
----------------------	---

4. メリットと石灰窒素……………	13
-------------------	----

昭和50年度林業関係除草剤・生育

調節剤試験成績概要……………	14
----------------	----

〈日本植物調節剤研究協会〉

昭和49～50年度牧野草地関係除

草剤・生育調節剤試験成績概要……………	16
---------------------	----

〈日本植物調節剤研究協会〉

表紙に用いた写真は、イネの葉の表面を走査電子顕微鏡で観察したものである。

(写真提供—農事試験場 高橋広治氏)